

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2016年7月

主な出来事

- 5日、北キブ州ベニ地区オイチャ(Oicha)で、9名の市民がADFによって殺害された。また、18日夜から19日朝にかけて、同州ルチュル地区キビリジ(Kibirizi)村(ゴマ市の北約85キロ)で、民間人10名が殺害された。同村の住民によると、殺害されたのは全てナンデ族。
- 13日、病気療養で海外滞在中のカトゥンビ前カタンガ州知事は、ワシントン DC で開催された、米シンクタンク「Atlantic Council」によるラウンドテーブル協議に出席した。
- 20日、(主に日本製)小型車を用いた未認可個人タクシーによる恐喝等の犯罪増加を受け、カニヤマ・キンシャサ州警察長官は、小型車のスモークフィルムを48時間以内にはがす命令を発表した。
- 20日、ベルギー国民議会は、コンゴ(民)における大統領選挙が憲法期限に則って実施されない場合、二国間援助を凍結する旨の決議を採択した
- 24日、23日の AU による発表(1. (5)イ参照)を受けたチセケディ UDPS 党首は、7月末に予定されている政治対話に関し、野党プラットフォーム「団結(Rassemblement)」は参加を拒否、また、AU が指名したコジョ政治対話調停者を拒絶する旨のコミュニケを発表した。
- 25日、カビラ大統領は、前期通常国会(6月15日閉会)で採択された選挙人識別と登録に関する法案(2004年公布の選挙法を修正)を公布した。
- 25日、ルブンバシ簡易裁判所のシャンタル・ラマザニ裁判長は、タンブエ司法大臣に宛てた書簡で、カトゥンビ前カタンガ州知事の不動産問題において3年の懲役を言い渡したことに関し、判決文に記した自身の署名を無効とみなすよう求めた。同裁判長によると、カレフ国家情報局(ANR)長官から、身体的及び精神的な圧力を受け、同判決を下した。
- 27日、チセケディ UDPS 党首らに乗せた自家用ジェット機がベルギーからキンシャサ国際空港に到着、同党首は約2年ぶりにコンゴ(民)の地を踏んだ。
- 29日、大統領多数派(MP)は、カビラ大統領が呼びかけた政治対話の実施を支援するための大集会を Tata Raphael スタジアムにて実施した。
- 29日、ダリル・ルイス氏(1. (4)イ参照)はワシントン DC の地方裁判所に、コンゴ(民)での拘留中に受けた拷問に関し、カレフ ANR 長官とタンブエ司法大臣を告訴、4. 5百万ドルの損害賠償を求める訴えを起こした。
- 31日、チセケディ UDPS 党首が代表を務める「団結」が呼びかけた野党大会が、キンシャサ市の Boulevard Triomphal とマルティール・スタジアム周辺の広場で開催された。午前中から参集した野党支持者は、警察発表が1万名、野党側発表が5万名。チセケディ UDPS 党首は午後3時過ぎに会場に現れ、スピーチを行った。
- 31日、カトゥンビ前カタンガ州知事はコミュニケで、野党大会に出席するため帰国を望んでいたものの、カビラ政権側が自分の自家用飛行機の着陸を許可せず、実現しなかったと発表した。

1. 内政

(1) 国家フォローアップ・メカニズムのムアンバ調整役が辞任

・14日、旧 M23 に関する2013年12月のナイロビ宣言のための、コンゴ(民)政府による国家フォ

ローアップ・メカニズムのムアンバ調整役は、カビラ大統領に辞任の意向を伝えた。

(2)若手議員ネットワークが発足

・20日、ミナク国民議会議長の主催で、「若手議員ネットワーク (Reseau de Jeunes Parlementaire)」の正式発足セレモニーが国会議事堂 (Palais du Peuple) で開催された。同ネットワークの主な目的は、治安 (警察、軍等)、教育、保健、雇用等の分野において、コンゴ (民) の将来を担う人材のために、若手議員が中心となって活動を活発化させること。ミナク国民議会議長は、若い議員がリーダーシップをとり、若者の対話を進めるため、全面的な支援を行うと宣言、若者保護のための法案作成を約束した。

(3)大統領多数派 (MP) が大集会を開催

・29日、大統領多数派 (MP) は、カビラ大統領が呼びかけた政治対話の実施を支援するための大集会を Tata Raphael スタジアムにて実施、AFP は約4万人が参加したと報じた。

(4)野党の動向

ア チセケディ UDPS 党首の帰国

・11日、UDPS はコミュニケで、エチエンヌ・チセケディ党首が7月27日 (水) にキンシャサに帰国、同党首の帰国を大勢の人々が歓迎するよう求める旨を発表した。
・27日午後2時 (キンシャサ時間)、チセケディ UDPS 党首らに乗せた自家用ジェット機がベルギーからキンシャサ国際空港に到着、約40分後、同党首は、十数名の野党代表、カニヤマ・キンシャサ州警察長官、MONUSCO 職員らの出迎えを受け、約2年ぶりにコンゴ (民) の地を踏んだ。

イ カトウンビ前カタンガ州知事が米シンクタンクによる協議に出席のため渡米

・13日、病氣療養で海外滞在中のカトウンビ前カタンガ州知事は、ワシントン DC で開催された、米シンクタンク「Atlantic Council」によるラウンドテーブル協議に出席した。同ラウンドテーブルには、オバマ大統領の元安全対策カウンセラーで、外人傭兵雇用疑惑で逮捕されたダリル・ルイス氏 (注: カトウンビ氏の元関係者で、4月24日にルブンバシで逮捕され、カトウンビ氏の外人傭兵雇用疑惑に発展した) の所属先 Jones Group の経営者である Logan Jones 将軍も参加した (8日付 Jeune Afrique)。
・同日、カトウンビ氏は、同ラウンドテーブル協議に訪れたダリル・ルイス氏と面会した。

ウ カメレ UNC 党首が政治対話への参加を表明

・18日、これまで、政治対話への参加を留保していたカメレ UNC 党首は、クセマ UNC 顧問を通じ、同党が政治対話への参加準備があると伝えた。

エ チセケディ UDPS 党首が政治対話参加を拒否

・24日、23日の AU による発表 (1. (5)イ参照) を受けたチセケディ UDPS 党首はブリュッセルで、7月末に予定されている政治対話に関し、野党プラットフォーム「団結 (Rassemblement)」は参加を拒否する旨のコミュニケを発表した。また、AU が指名したコジョ政治対話調停者を拒絶することも述べている。

オ 野党プラットフォーム「団結」が要求している政治犯の無条件釈放に関する動き

・22日、カビラ大統領は恩赦を発表、カビラ大統領の任期延長に反対し2月に逮捕され、3月4日に6か月の懲役を言い渡された「変化への闘争 (Lutte pour le changement; LUCHA)」のメンバー6名への刑期免除を決定した。とはいえ、LUCHA のカピアンダ弁護士によると、メンバー6名の刑期は、残すところ2週間程度。
・23日、恩赦を受けた LUCHA メンバー6名は、他の政治犯に対する連帯を示すため、残りの刑期に服すると決定した。

・26日、これに対し当局は、LUCHA メンバー6名を強制的に北キブ州ゴマ市の刑務所から退去させた。

カ 野党、市民社会等への政治的圧迫

・27日、イトゥリ州ブニヤ市で、同市の市長が呼びかけた行進に参加していた「市民戦線2016 (Front Citoyen 2016)」のメンバー7名(内訳:LUCHA4名、Filimbi3名)が逮捕された。同行進は、政治対話支持を呼びかける与党を中心とした参加者によるもので、「市民戦線2016」メンバーは、「憲法を尊重した政治対話なら Yes」と書いたプラカードを掲げて参加したことで尋問を受け、国家情報局(ANR)に連行された後に逮捕された。また8日にも、チョボ州キサンガニ市で会合に参加していた Filimbi のメンバー1名が逮捕されている。

キ 野党大会の開催

・31日、チセケディ UDPS 党首が代表を務める「団結」が呼びかけた野党大会が、キンシャサ市の Boulevard Triomphal(国会議事堂前にある独立記念式典のための大通り)とマルティール・スタジアム周辺の広場で開催された。午前中から参集した野党支持者は、警察発表が1万名、野党側発表が5万名。チセケディ UDPS 党首は午後3時過ぎに会場に現れ、スピーチを行った後、午後4時半頃、平和裏に閉会した。

・同日、カトウンビ前カタンガ州知事はコミュニケで、野党大会に出席するため、司法大臣による逮捕の脅しにもかかわらず、自分は帰国を望んでいたものの、カビラ政権側が自分の自家用飛行機の着陸を許可せず、残念ながら、実現しなかったと発表した。

(5) 選挙・政治対話の動向

ア 政治対話のための「支援グループ」が発足、チセケディ UDPS 党首らと会談

・4日、6月にブリュッセル近郊で開催された野党会議後に結成された賢人委員会 (comite des sages) の求めにより組織された、コンゴ(民)における政治対話の開催を促すための「支援グループ (groupe de soutien)」の初回会議がアディスアベバで開催され、コジョ政治対話調停者、在コンゴ(民)アフリカ連合特別代表、シディク MONUSCO 国連事務総長特別代表、ジニット国連大湖地域担当特使に加え、SADC、大湖地域国際会議(ICGLR/CIRGL)、仏語圏(フランコフォニー)国際機関(OIF)、EU からの代表が出席した。

・10日、「支援グループ」はアディスアベバでの会議を受け、ブリュッセルにてチセケディ UDPS 党首と会談を行い、チェルギ・アフリカ連合平和安全保障委員、ジニット国連大湖地域担当特使、Vervaeke・EU 大湖地域特使が参加、また、野党側指導者も数名出席した。

イ 政治対話準備委員会に関する動き

・23日、AU が指名したコジョ政治対話調停者は、7月30日(土)に、政治対話の準備委員会会合を開始すると発表した。また、26日には、準備委員会の参加者について与党、一部野党、市民団体等からリストを受け取った(23日付 AFP)。

・26日、コジョ政治対話調停者は、野党プラットフォーム「団結」が24日、コジョ氏の調停を拒絶するコミュニケを発表したことに関し、「調停者に不名誉を着せることは不当である」と反論、自分がカビラ大統領を支持するために調停を行っているという証拠があるならば見せて欲しいと述べた。

・29日、コジョ政治対話調停者はコミュニケで、30日に予定していた政治対話の準備委員会の開始を延期すると発表した。

ウ 選挙人識別と登録に関する法案が公布

・25日、カビラ大統領は、前期通常国会(6月15日閉会)で採択された選挙人識別と登録に関する法案(2004年公布の選挙法を修正)を公布した。

(6) 独立国家選挙委員会(CENI)の動向

ア 選挙人登録キットが北ウバンギ州に到着

- ・26日、7月31日から、北ウバンギ州で選挙登録をパイロット的に実施するための登録キットサンプル(90トン)が、キンシャサ国際空港に到着した。政府は、これらキットを北ウバンギ州に輸送するため、2機のヘリコプターと50台のトラックを用意した(26日付 ACP)。
- ・31日、CENI は北ウバンギ州での試験的な選挙登録の開始式典を行った。

2. 外交

(1)カビラ大統領が AU 総会出席のためキガリを訪問

- ・17日、カビラ大統領は第27回 AU 総会出席のため、キガリを訪れた

3. 東部及び大湖地域情勢

(1)北キブ州ベニ地区の情勢

- ・5日、FARDC 報道官は、北キブ州ベニ地区オイチャ(Oicha)で、9名の市民が ADF によって殺害されたと発表した。
- ・18日、バイヨ MONUSCO 軍副司令官(少将)が離任の挨拶に際し、北キブ州ベニ地区における、ADF を中心とする武装勢力による民間人の殺害に対応するため、コンゴ(民)政府に対し、ウガンダ軍との合同作戦実施を呼びかけた。同地区では、2014年10月以降、600名以上が虐殺されている。

(2)北キブ州ルチュル地区におけるナンデ族とツツ族の民族間紛争

- ・18日夜から19日朝にかけて、北キブ州ルチュル地区におけるナンデ族とツツ族の民族間紛争により、同地区キビリジ(Kibirizi)村(ゴマ市の北約85キロ)で、民間人10名が殺害された。同村の住民によると、殺害されたのは全てナンデ族で、FDLR 兵士が犯行を行った由。

4. その他

(1)前独立国家選挙委員会(CENI)委員長マルマル神父の葬儀

- ・14日、米国で死亡した前独立国家選挙委員会(CENI)委員長のマルマル神父の遺体がキンシャサに到着、16日、カビラ大統領参列の元、国会議事堂で国葬が執り行われ、国民勲章(ordre national)における大受勲(Grand officier、五段階の階級のうち、上位から2番目)が授与された。同神父の遺体は、17日、出身地の北キブ州ブテンボに戻り、同地に埋葬された。

(2)小型車の犯罪増加により、窓ガラスのスモークフィルムが禁止される

- ・20日、(主に日本製)小型車を用いた未認可個人タクシーによる恐喝等の犯罪増加を受け、カニヤマ・キンシャサ州警察長官は、小型車のスモークフィルムを48時間以内にはがす命令を公式に発表した(20日付 Le Potentiel 紙)。

(3)ベルギーによる二国間援助凍結の可能性

- ・20日、ベルギー国民議会は、コンゴ(民)における大統領選挙が憲法期限に則って実施されない場合、二国間援助を凍結する旨の決議を採択した。同決議は、ベルギーへの入国制限や資産凍結といった制裁と同時に行うことで、コンゴ(民)政府に圧力をかけるのが狙い(21日付 Jeune Afrique)。

(4)在コンゴ(民)ベルギー大使が国民投票を「誤り」と批判

- ・20日、在コンゴ(民)ベルギー大使はナショナルデーの記者会見で、(与党側が示唆している)カビラ大統領の3選を可能にする国民投票について、我々は現在の政治的合意に至るために数年を費やしてきたのであり、国民投票という考えは「誤り(erreur)」であると述べた。

(5) 国連人権高等弁務官がコンゴ(民)の人権状況について発表

・21日、ラアド・アル・フセイン国連人権高等弁務官は記者会見で、性的暴力における不処罰問題は、ここ10年でかなりの改善が認められるものの、カビラ大統領の任期終了に向けて高まっている緊張に対処しない限り、当国の人権状況は「危険」なレベルになると発表した。

(6) 新航空ライセンスが Congo Airways に発行される

・21日、民間航空局(ACC)は、Congo Airways に、新航空ライセンスを発行した。当国における航空機事故多発を受け、政府は2013年に、既存の航空ライセンスを全て取り消していた(22日付 Le Potentiel 紙)。

(7) ルブンバシ簡易裁判所長が ANR 長官による圧力を告発

・25日、ルブンバシ簡易裁判所のシャンタル・ラマザニ裁判長は、タンブエ司法大臣に宛てた書簡で、カトゥンビ前カタンガ州知事の不動産問題において3年の懲役を言い渡したことに関し、判決文に記した自身の署名を無効とみなすよう求めた。同裁判長は、カレフ国家情報局(ANR)長官から、大統領選挙の候補者としてカトゥンビ氏の被選挙権を失わせるため、同氏を有罪とするよう、身体的及び精神的な圧力を受け、同判決を下したと告発。

(8) ダリル・ルイス氏が拷問の罪でコンゴ(民)当局を訴え

・29日、ダリル・ルイス氏(1. (4)イ参照)はワシントン DC の地方裁判所に、コンゴ(民)での拘留中に受けた拷問に関し、カレフ国家情報局(ANR)長官とタンブエ司法大臣を告訴、4. 5百万ドルの損害賠償を求める訴えを起こした。